(3) 研 究 会

昭和61年度も「研究会」と小規模の「ミニ研究会」を当初募集し，以下のものが採択・実施された。

A．研究会

1. ヤクニホンザル自然群の社会と生態の研究
2. ニホンザル社会の再考（近縁種との比較を含む）
3. 第16回ホミニゼーション研究会

B．ミニ研究会

1. 霊長類の軟部運動器
2. 霊長類の聴覚と音声に関する研究
3. 戦後日本人の顎・歯牙の変異性の機能形態に関する研究会

2 研究成果

A．計画研究

課 題 1

ニホンザルの群れの遊動時における群れ内の個体間関係

陸　斉（東農工大・農）

先行・追随関係を集団移動を支える基本的な個体間関係としてとらえるならば，その全容を明らかにするためには，集団移動時の先行・追随と，他の種々の個体間関係の中に出現する先行・追随とを統一的に理解する必要があることが，前年度までの研究により示された。

今年度はそれを受けて，個体間の諸関係の中に現われてその関係の形成と維持に関わる先行・追随交渉と集団移動の関連を，行動学的に明らかにすることをめざした。

その結果，性関係については，(1)性行動は，〈発情〉―〈親和的接近・追随〉―〈交尾〉から成ること，(2)性的興奮状態とそれを抑制しつつ他個体に接近を試みることによる葛藤に基づく様々な行動が生じること，(3)性行動の先行・追随は特定の個体との近接状態の維持に関わる行動で，周囲の他個体の動きにつられて動く傾向の勝った集団移動時の先行・追随とは異なること，などが把握できた。交尾期は性関係によって群れ内の個体の分散状態や先行・追随が影響を受けながらも，集団移動時には，それぞれの個体が近くの個体に追随するという形で先行・追随関係は現われる。また，いわゆる親和的関係・優劣関係・母子関係等についても，それらの中に現われる先行・追随関係を集団移動との関連で検討を行いつつある。

そして，今後はさらに，集団移動の際に，従来リーダーシップといわれてきた行動を“諸交渉をイニシエイトする諸行動”としてとらえ直し，先行・追随に関わる諸行動の中へ位置づけ検討すると共に，以上のような様々な行動範疇に属する先行・追随を社会的伝達として統一的にとらえて，その個体発生の過程を明らかにする研究へつなげていくべきであると考える。

課 題 2

ヤクニホンザル自然群におけるオスの繁殖戦略とメスの繁殖戦略

竹門直比・David. S. Sprague（京大・理）・塚原高広（東大・理）

昨年からの継続研究で，今回はオスの群間移動だけでなく，交尾関係についても分析する。またメスについても交尾関係や頻度などを分析し，交尾の成功率と群間移動の関係について考察する。

まず，オスの交尾について見てみる。2年間の交尾を群れオスと群れ外オス別に，交尾位置を群れの中心，周辺，孤立と区別して集計した。その結果，射精に至った交尾だけで見ると群れ外オスの割合は47%を占め，群れオスに比べ交尾の機会が少ないとは言えないことがわかった。ただし，交尾のタイプは孤立が圧倒的に多く（80%）群れ外オスの交尾の成功は，いかにメスを群れの外へ連れ出すかにかかっていると言える。また，例数は少ないながら（7例：9%）中心部で交尾を行っているオスもおり，群れのTake over や分裂を引き起こすきっかけとなった個体もいた。このように群間移動をするオスの交尾戦略には，2通りのものが考えられる。